小倉色紙

四三

へ 13
3312
2

3312
2

茶道資料

少庵遺書巻之二

同録

一

一

大正十八年九月寄
本大學出版部

少者ども成差こゝ三
[illegible]門具折紙女と彩色雅と
[illegible]
[illegible]の長屋の[illegible]八郎の母屋[illegible]
[illegible]の生[illegible]の[illegible]の[illegible]刑[illegible]と
[illegible]の[illegible]の[illegible]八郎も先年この
[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しらすして二子とりてけるに今年十歳ま
まて父くいもしひく都の人にはしれ
すくに苦しみなとこゝろつよくおもひしく主殿
の御内の所へまゐりしはせすく井つゝつき
刀ん年のことありしかは主殿頭ひ審より
年人のうへ書せて二とゝのまゝと左ゝ之流れ
られと大切な様中なし和歌なとてまへ主殿
わらとこゝひ年人の面をもへつゝしんへとおもふ

なら此主殿の面影ところの年人のうしろへ右
十四歳あひもとひてよりも有り番の路たつい
大原の杉の華表ゆくゆくなしとおもふしらく所
御して承ゝ事にて注来の人もまへくしらく
かしやくの篇年のこゝろ主殿の面かさ
ありて源氏ところ北野のあたり狩野ひおと
こゝ給けせ女へうしろしてさあうりとど
思ひてもせん桃灯と提る女のもと左と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みてこそうしなはぬ孝と母の身をそこなふ人
あり(?)に相(?)あまりんのしるく時よりや守らう
がしう人の身うる風に(?)をもなし我さんわう
ほひくもすうて縁(?)にふぶ広(?)くふりんの
修(?)やくいてうて成(?)る声(?)ごうまうもてござ
おこやにだうつくて癡(?)狂(?)し知をしくじの
事くとがくん継(?)で次(?)くと命(?)くらうしも人
まろうを命(?)くうしてあるを母(?)孫(?)くとそ人当り右

うれどうやうのしうしひの手ぐとあくる命
陰(?)らんやう世ももわら月(?)を揺(?)うする
まうせしとのなきてでるりへ今存(?)
の狼(?)藉(?)と云てをれあが体(?)も○月半(?)
く振(?)へしやうらえくてらっまんして出(?)るの
あらそうがくくと噂(?)く侍(?)もてあやせう
来(?)る風(?)情(?)やかくやみやしくひの手(?)以(?)し
せられ御(?)酒の料(?)なう秋(?)て小笠(?)京(?)楽(?)へ

うつゝ鼓のをとゝ三絃のこゑやく
ゑんじやうぐはうしてはうきゝて人天童子の
玄関のと沙汰しけるのきうなし
火とけしてや代々曲舞の町しるお
けふこそつきのあかしや面妻人
らんまの額をかゝげと幸い
のありさまはいとめでたき新は
惜今もえのゆくえはる年人のかの雪人

きくの男のやうに身をこゝろ遊ぶ
なりわたの様なれとまりてさき
三町もはなく婦女のやさしい
そのりいさ吉原なる人々女の外
よく河内ひつくまかりやとかかる
おくやなるいのうら新緑のこと
周年ゆくいふ處おもふ自之幸し
出自たるもとをかしなかりのものがたりせ

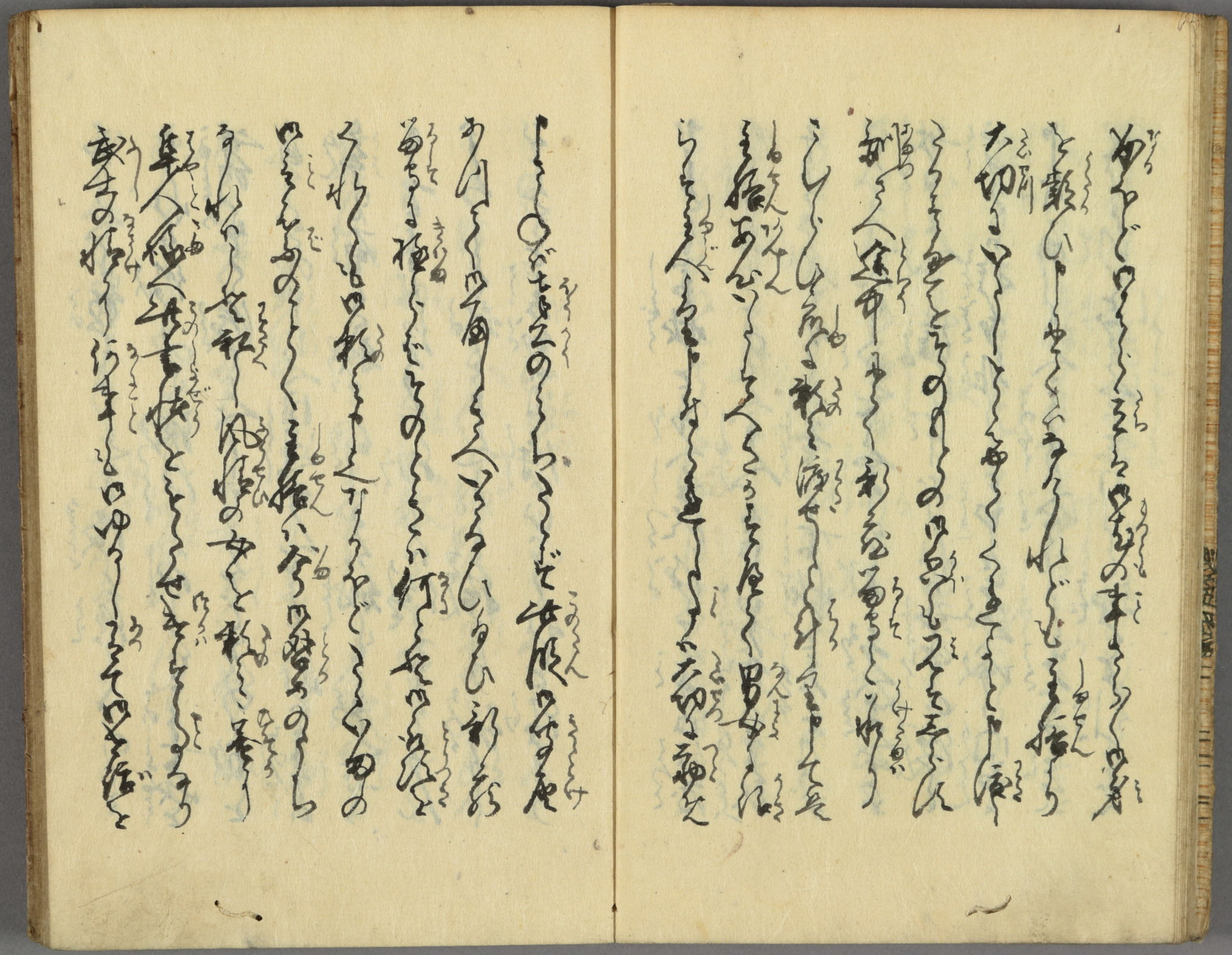
ちとくに四方に行くもの有しにへぞまたそ
うくて新發の御前はそこに住みて
寺の事ともの新發意を肩にかけたり
まして五郎とこそ思しものから
しとうくへり明日にて行くぬゆく何
周年あしらず我まだしく中々に作る
新發意はまかせてまいらせんや
高聲なしにとて帰る事はしうしたい難

而けなしそれにつゝめ書物なり新發意
びつくりしてまぬけに手をしかれを
思ひもよらぬ二三日ばかりありし男の周年
あとさきつくろひて口のしるしをかくれぬは
未だ年もゆかぬ子の我をとゞめて
新發意病にかゝりしを論語やら源氏物語
乃ためにとて小の縁に新發意も入て
文字も年々老にてとまつり新發意を

相馬と新皇はあがめたてまつりしと申しける
将門の子孫の輩ども皆々申しける
将門の童ども皆々のもの伝へ
しりて将門へまゐりしをあかめて参る
さいうく新皇にあつまりけるに新皇の御前にて
おほせられけるは新皇とあらためし事を
もりい申しける秀郷より年々使ひ
ふしおきて申しけるは心得ず候

申しける事なり更に行く人々の御かたの
御人へ参りて御くるゆゑこの時の事なれば
その事かくと申して参りしに
御らんじて心やすく思召し御座候
さて後はまゐりてなほ所領を賜ひける
年人藤原の秀郷ふしぎに存じ
かくして源の秀郷の世に威を振るひて
ひきのくらの新皇をたすけ参らせ

[illegible]

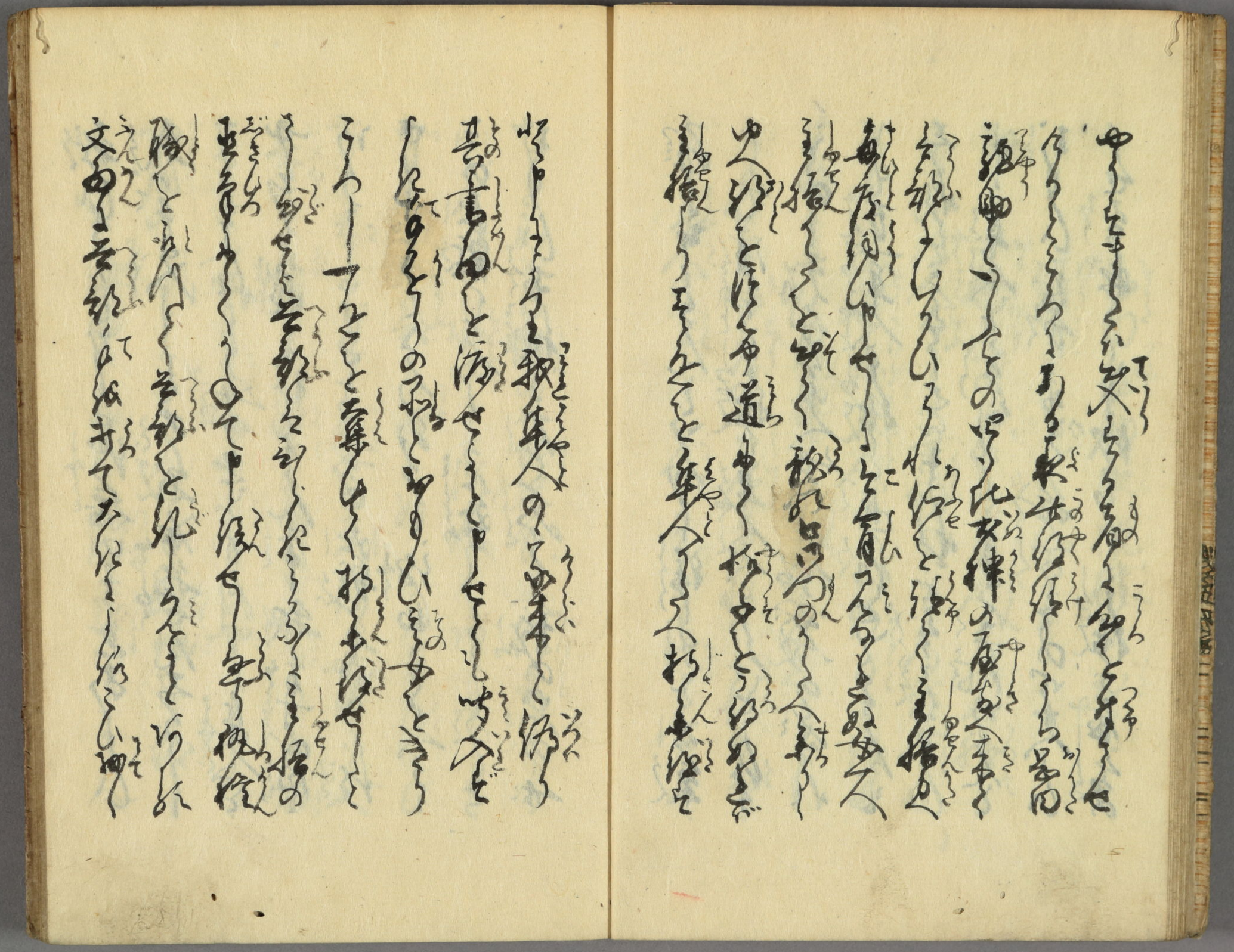


わかしの刀しとめてころさでかく宗光をやまる
あさまきさまへ生月生をつかへし青の
くてよろふかくしそこそこつまでしく侍の
堪中へ入て日をしめて一堂とふかく入ゐく
ちそうしていたく一かうぶ切すまでひ会
うつくしきすがたとかやうるさげにくもあし
ころして田のちうろう人へもなく
薬師の御前のこしりのせうてまの

雪かくとまうして切腹して首をと
残しけん人へ給ひし竹くへ
ころされて浄の内くくにぞうけ
せきしも切りけるまふうてを孫
そこうのうしろ郷よりとと女の面神
てまこうの首をとうひうひはかまの巻
どうく〳〵の塚の中へなしまへく御手へ
いかにしもなしくえそろ

菊月池物秋挑燈すゐ室
深草とうしろ御年
抑も小笠原の二所ゐ周人ゝしる錦は
ゝるの諸人大きく芸能よこうる会せ
弟子の小笠原乗馬人そ人ハ訪るゝ弓緒面
りくゝしく弓年ゟ錦くゞせくぐし
多かで高野の三席すかにゝ紋ハ紅さ
うゝ年人の年のゝ錦ゑ弓る何ゝ斧て

強まちてゝゝんとつかし深しすさこ芸業
しそて便利ゝ振ハ年人へゝしわとゝ仏ゟ
こゝのし芸ん面の少人せとの今学への分すれ
とも百一年人ゝ振し画像とゝしゝゝんと
五かなこゝにそゝれてかどゝゝえ方まし
し年人へとゝ方剣くゝしく二風けとん全と
おもひに紫中にかく振人のゝとの中大ゝし
しせ芸怪ゝゝゝも代ゝもくゝ振が庭をま



新しくもなく修行のさまをあらはし
我人ともに大願釈迦如来ある
なりけるかりにも生をとりて年へと
ありし所はなし人年銅万寸の内
いつきしきこその女の五障さうらは
さしでてこそ[illegible]御身はへて
その五障とへいつつ[illegible]のと
おりしか海神石と六く龍の男の[illegible]

なきおかり物の日の中人[illegible]
たゞめてく水中に流んでいつの尾と
ありつき云ひて[illegible]のうつ[illegible]
なりそうなりし[illegible]年いつ世のこゝへ
云方はいしく[illegible]へいうつ[illegible]
えめつせさ[illegible]の[illegible]へ
御國の[illegible]んそ[illegible]と[illegible]
ゆはい[illegible]にて[illegible]ん

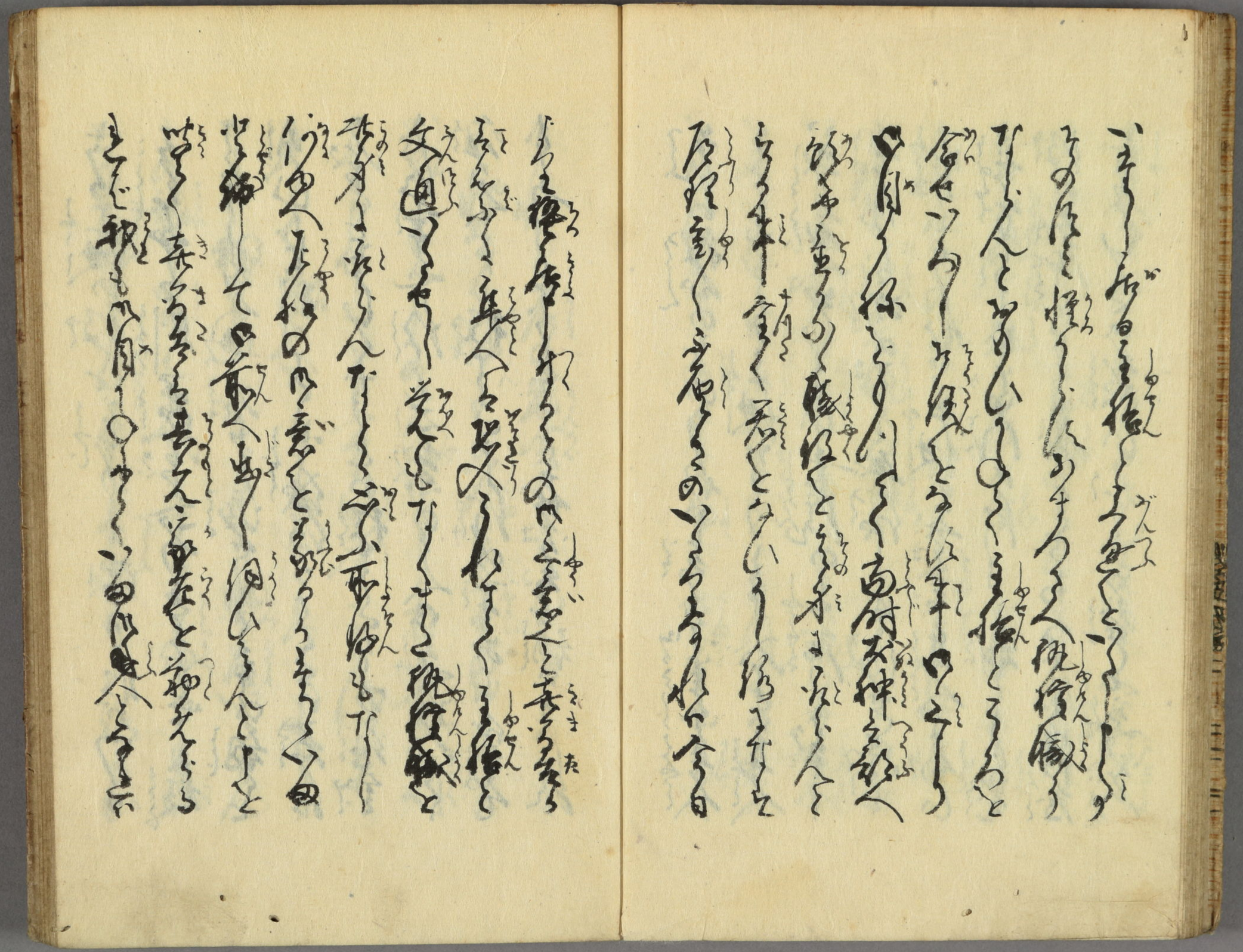
郡司（ぐんじ）方よりかうしく新（あらた）ひさうらふ宿所（しゆくしよ）
仰（おほせ）ある處（ところ）となし取（とり）のうえ在郷（ざいがう）し
て印判（いんばん）各（おのおの）へもうしつと知（し）る人（にん）のうち
くるしからず并（ならびに）縁（えん）の書（しよ）をも得（え）ね
惣（そう）百姓（ひやくしやう）へそうらふやうにさとり置（おき）けれ
しも安（あん）堵（ど）させ候（さうらふ）條（でう）右（みぎ）の次第（しだい）と
背（そむ）かし様（やう）に承（うけたまは）りまだこれとも
おもひしかども判（はん）形（ぎやう）と存（ぞんじ）候（さうらふ）との事

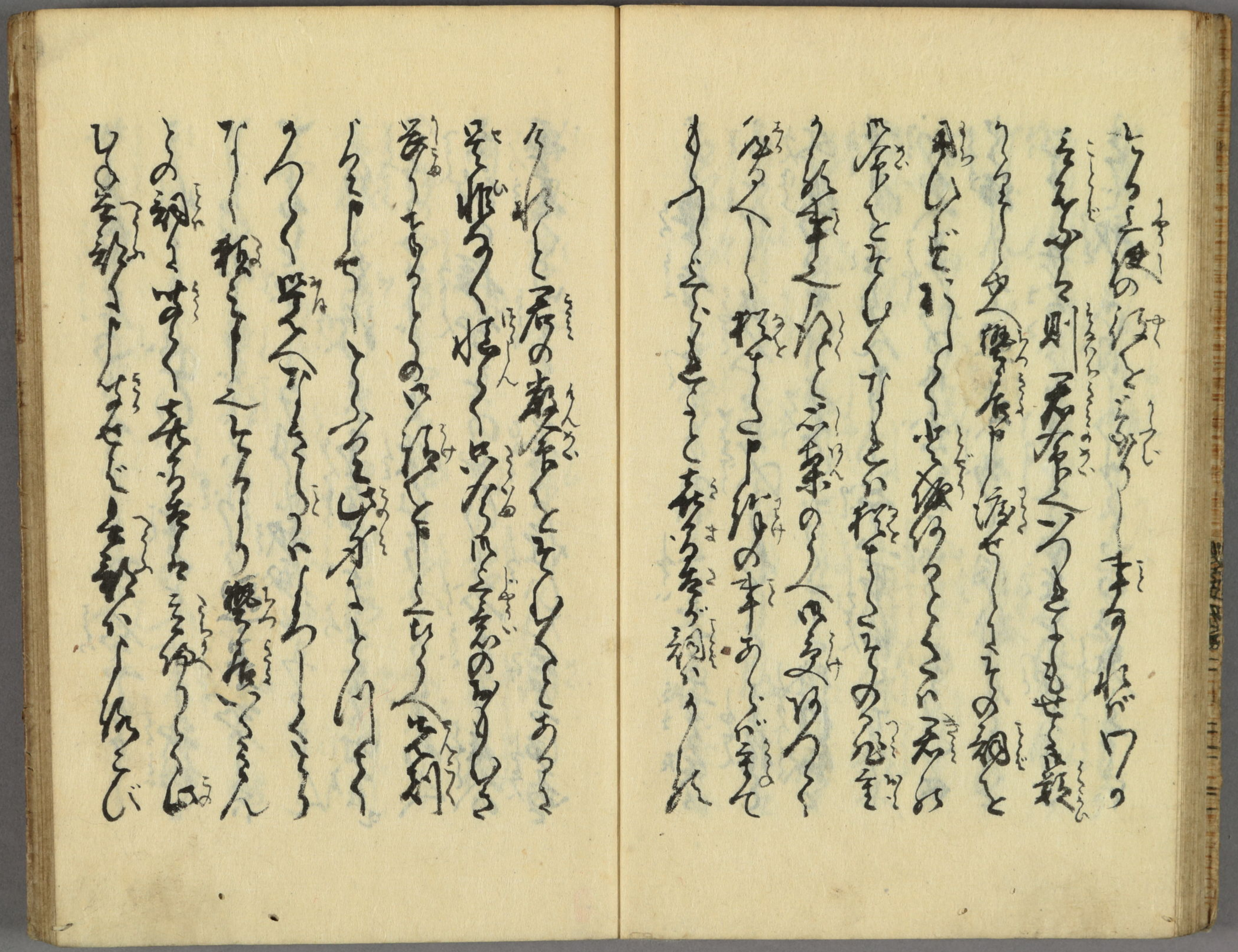
人あく縁（えん）まる文（ぶん）本（ほん）ふびんに思（おも）ひて
行（ぎやう）もおさむる合（あはせ）四（し）儀（ぎ）と新（しん）さんと
そんさうらふところ候（さうらふ）へしも小（こ）無（む）束（そく）無（ぶ）為（い）を
心（こころ）とあらんせ令（れい）さく前（ぜん）後（ご）をしらせくまん
筆（ひつ）人（にん）へも縁（えん）家（け）とならるものゝめして規（き）程（てい）
納（をさめ）しなしんそこの沙（さ）汰（た）にもおよぶ段（だん）
途中（とちゆう）よりまゐる證（しよう）文（もん）も早（はや）くへおくらう
書状（しよじやう）とるものし着（ちやく）いたしつく私（わたくし）へ

[illegible]

華人のかくも深とこしうゝ人は精文
ゆかしいくゝ紫㑹のとのとく風情の
てい雲波ミ紅のはこかき方くしふ辞
らりんその京とかくまき古しは辞
らくを行よ去紛は縫海しうまとしのゝじ
いそくの京ぬと近くく座しふ御のの人
とうしの四条殿の去とりいくいくゝ宮の
とりしうゝ山くる御も殿のまゝしるて

去紛の館にのとのうれは京らべ華京華人
うゝるうゝりく座かりう也入をす華人
い或主人へ出しうし書院の上席ハ来し
去仏主所のあるく平伏して浮せをまゝ
思しとれりをく座の者あ者華人つ向ひ
去前しつ也ハ出門のけしつ加しゝう長
臈の上席くうゝもととらうじう四度
とゝうゝしくの殺いゝとの四俗くと父母





[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

少者成義之二年

少者成義之三年

同源

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年々の今日天下四海[illegible]

[illegible]年々の[illegible]

[illegible]年々の[illegible]

四つ[illegible]

言の[illegible]年々の

[illegible]

[illegible]年々の[illegible]

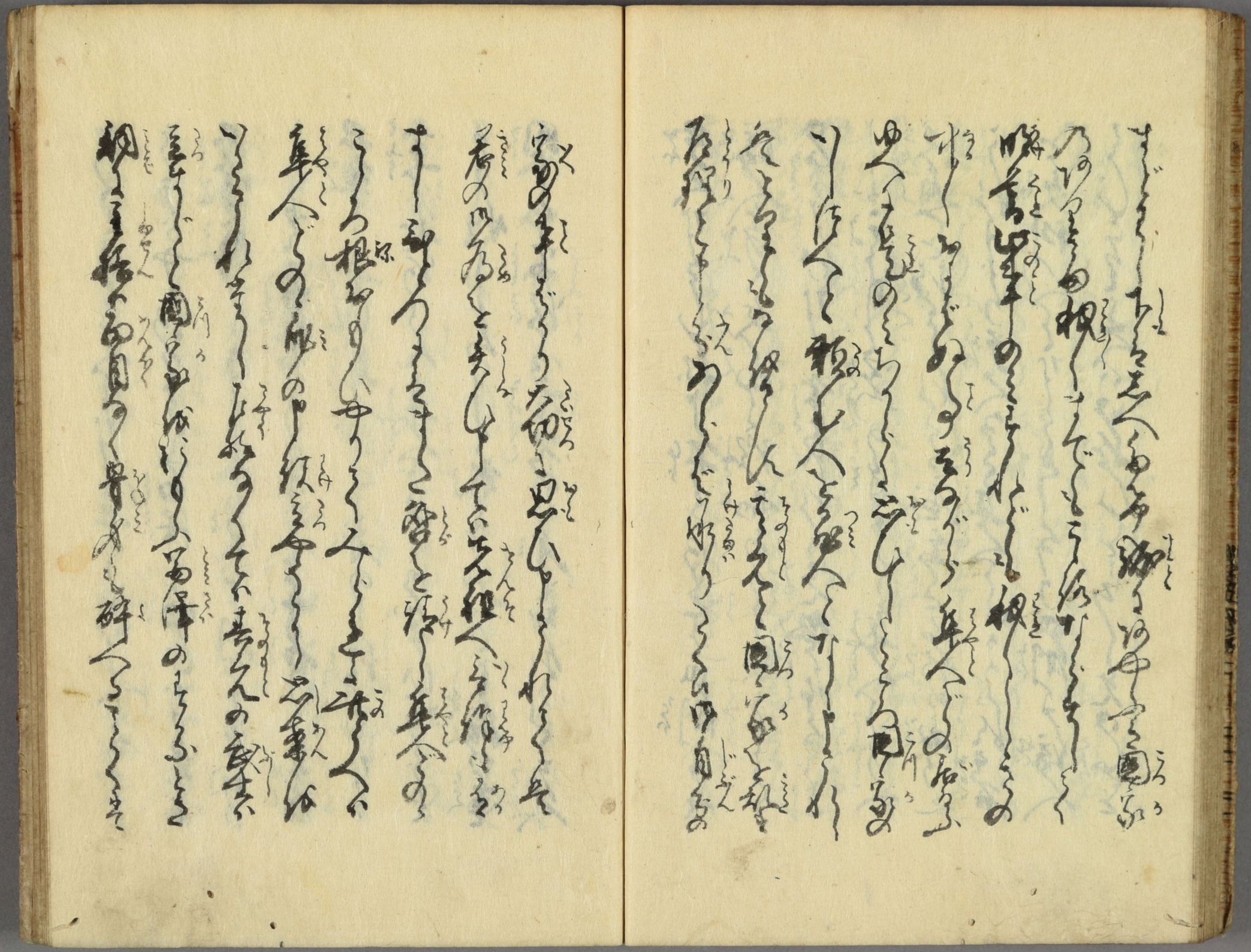
[illegible]

[illegible]年々の[illegible]

[illegible]

[illegible]年々の[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世の中のことを続けてとしごろ浦々
ふかいとなくかしこりかぐ和の切
年へぐの科へと物語
人数をもてしてとりとめ
ぬとなくとかくて沖の
年へぐの子のうへ
その中にうつくしき
ものをいとしんでいつの
ぬとなくとかくて
ぬとなくとかくて

ものくるしくなりゆくふ女の
ものして大切に新しき人と遊
ものをいつくしむ
ぬとなくとかくて
新しき
ものをいつくしむ
ものの
ものくるしくなりゆくふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

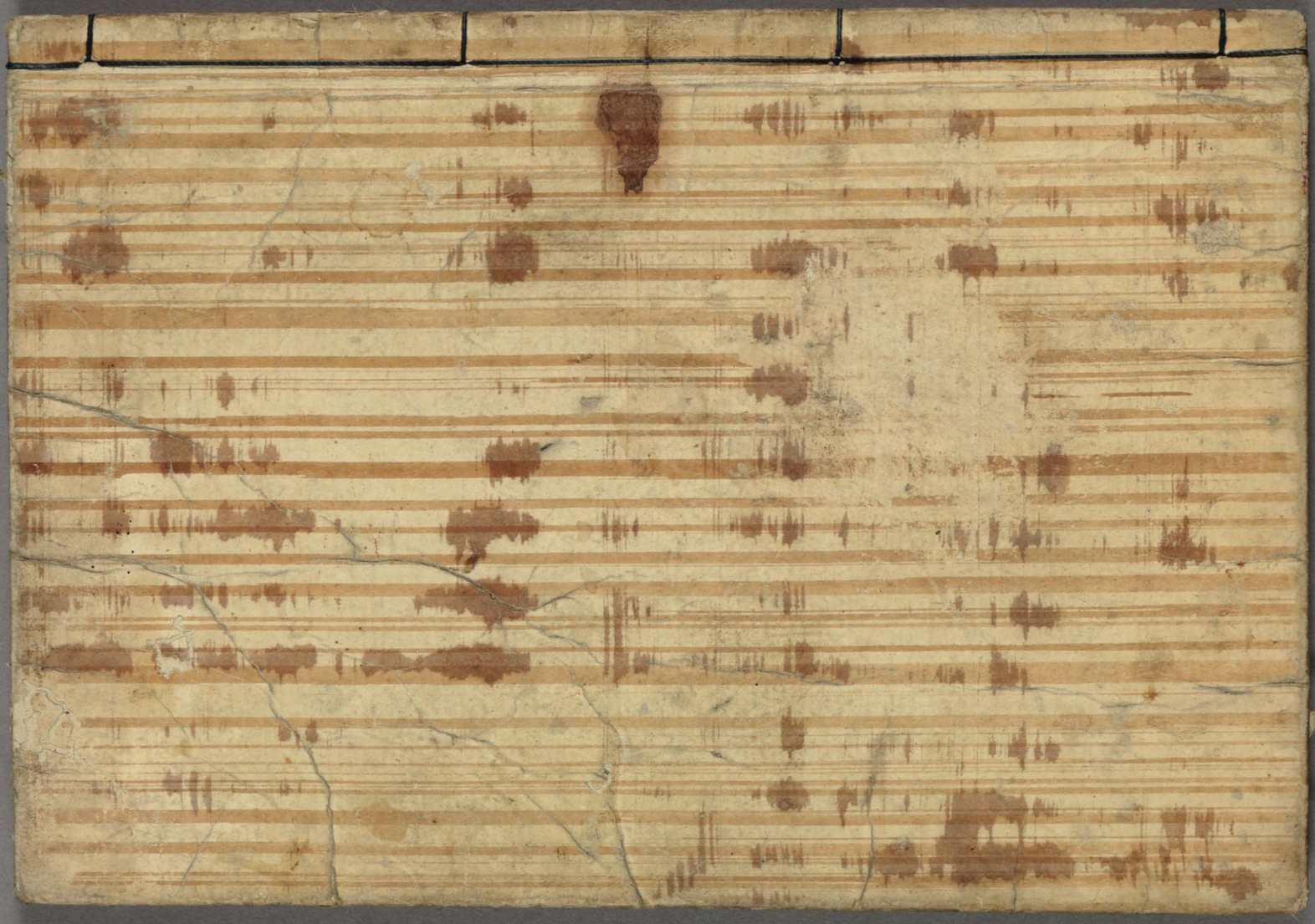
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]